

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21年 4月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	0193800034		
法人名	株式会社 パシフィックケアサービス		
事業所名	グループホーム ゆとりの里三石		
所在地	〒059-3233 北海道日高郡新ひだか町三石梺舞344-6 (電 話) 0146-34-2834		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年4月27日

【情報提供票より】 (21年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 12 月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 10人, 非常勤 0 人, 常勤換算5.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円		
その他の経費(月額)	光熱水費 1日650円	冬季10月~3月燃料費	月6000円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (3 月 25日現在)

利用者人数	9 名	男性 5 名	女性 4 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.2 歳	最低 78 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やまだクリニック、おおきクリニック、波川歯科、中村薬局
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ゆとりの里三石」は、豊かな自然に囲まれた、窓から海が一望できる広い敷地に立地している。建物は高齢者の生活のしやすさと安全の確保を重視した工夫が随所に盛り込まれた構造で、広々とした開放的な中に木のぬくもりが感じられる住環境が提供されている。また敷地内には畑や、小動物が飼育され、季節感を感じながら利用者の以前の生活習慣や生きがいが継続できるような支援が行われている。母体組織の代表者、管理者と職員が一体となってケアにあたり、積極的な研修への参加とともに一人ひとりの利用者に対する理解とホームでの生活が豊かなものとなるよう継続的な取り組みが行われている。また、現在2ユニット化に向けて準備が行われている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の調査では、地域密着型サービスとしての理念の項目で、住み慣れた地域での暮らし、関係性の継続、地域生活の継続を支える理念の取り組みに期待したいとのことであった。調査時点では未達成の段階であり、今後2ユニット化を行う際にホーム或いはユニット毎の理念に盛り込むなど、管理者と職員とが協働した取り組みが期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の作成に当たっては、全職員が会議を通じて話し合いを行い、ケアサービスについての具体的な改善につなげる検討と取組みが行われている。ホーム開設以降、自己評価に関した会議を重ねることにより、徐々に職員の評価の意味と意義についての理解が深まっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月毎に開催している。今後、運営推進会議のメンバーを増やす予定であり、色々な立場のメンバーの参加を得てより良いホーム運営が行われることが期待される。地域交流に関しては、自治会や学校との行事を通じた交流が行われている。また地域に対してホームの情報の発信を充実させる取組みも既に始まっており、地域の理解と協力の関係が構築されつつある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見等の聴取については、意見箱を設置するとともに随時申出等を受けることができるような管理者と家族との関係が築かれている。更に利用者又はその家族から相談や苦情を受けた場合には、了承を得た上でその内容や対応について記載した帳簿を居間に設置し、再発の防止の取組みや、運営への反映などを公表している。今後は更に意向の表出を促し、より良いケアサービス提供に繋げる工夫が望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内行事や小学校などの発表会・運動会に出掛けている。またホームにはボランティアの訪問もある。ホームの「便り」の中でホームから地域の協力の要請を行ったり利用者が地域の祭りで太鼓を披露するなど、双方向的な関係が築かれている。今後は広い畑や、ヤギや羊、ウコッケイの飼育などのホームの特色を生かした交流も期待される。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念「ゆっくり、一緒に、楽しく」を基盤に、運営理念と、ケアを行う際の指針となる3項目からなる目標・目的が定められている。それらを踏まえた穏やかで家庭的なサービスが提供されている。	○	現在、2ユニット化に向けての準備段階ということなので、この機会に地域密着型サービスとしての役割を、事業所或いはユニットの理念として付け加えることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所内の目立つ所に掲示されている。運営者が掲げた理念を運営者自らが職員に対し説明し再確認する場が設けられるとともに、月2回のスタッフ会議の中でも理念の共有化が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域行事や学校行事にも参加している。職員間で、「地域からの協力を受けるのみならず、如何に事業所として地域に貢献できるか」話し合いが行われている。事業所への理解を促すための情報発信を含め地域の一員として積極的な取組みが行われている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を議題とする会議を重ね職員全員で評価表の作成に取り組んで。前回の外部評価結果を受けて、改善点についても話し合い、検討している。	○	運営者、管理者と同様に全ての職員が評価の意義について十分に理解し、評価結果をサービス改善の取組みに反映されることを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の定期開催を重ねている。事業所の実状や行事報告など情報開示を行い、提案された意見はスタッフ会議で検討し、より良い事業所運営のために反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の介護支援センター等と、地域のニーズや利用者の情報などの情報交換を行っている。また、事業所から転出した利用者の状況等についても共有を行っている。更に、町職員とも非常災害時の協力について等で理解を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは毎月「ゆとりの里便り」を発送し情報提供を行っている。状態変化時には電話等での速やかな相談や家族の来訪時には積極的に事業所での生活状況の報告がなされている。	○	今後は、「便り」が公共施設等に掲示される機会も増えることから、家族へは個別の利用者情報を盛り込むなど家族の安心や来訪を促すような取り組みを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部の相談窓口のほか、外部機関の窓口が明示されている。訪問時の家族とのコミュニケーションを大切に、話しやすい雰囲気作りや意向の聴取とともに寄せられた苦情等に対する対応結果を当事者の了承を得て公表するなどの取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所の開設以来、職員の離職や職員交代は少ない。事業所では研修体制や勤務時間など職員の働きやすい環境にも配慮しており、馴染みの職員によるケアサービスが提供されている。職員交代があった場合でも、説明を行い、利用者へのダメージを最小限に防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や習熟度に応じて事業所でのケアに必要な研修が適切に実施されている。1週間程度に及ぶ外部研修に参加する場合でも、残った職員の勤務時間の配慮も行い、働きながら学べる環境が整備されている。内部研修でも職員のモチベーション向上や技術の取得に向けた取組みが行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のグループホーム協議会に参加し、交流と情報交換を行っている。別法人の提携グループホームへ職員を研修のため派遣しており、本年も新人研修を予定している。また、利用者も含め、他のグループホームと合同で花見などの行事を通じて継続的な交流を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望の相談段階から利用者・家族の困難さや心配事を受け留め傾聴し、また介護支援専門員等からの情報も含めて検討し、入所前にできる限り見学を勧めている。利用初期は、帰宅願望が強い場合には家族の協力も得ながら本人が徐々に馴染めるように個別に支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	基本理念である「ゆっくり、一緒に、楽しく」の通り、職員と利用者と同じ目線の生活者として支えあうケアが実践されている。利用者の生活の知恵や経験を発揮できる場として畑や家畜の世話、家事を通し、職員も学び、喜びを分かち合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日常のコミュニケーションを重視し、把握した生活歴やケア場面での気づきをもとに、意向を把握している。把握が困難な場合や、より利用者の理解を深めるため、アセスメントを強化する取組みが行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	6ヶ月ごとに行われる介護計画の作成は、代表者、管理者、職員全員で協議を行い、多角的に検討を行った上で介護支援専門員より家族に説明を行っている。職員の居室担当制により、更に詳しいモニタリングを行っている。	○	アセスメントの手法にセンター方式を順次取り入れ、情報の収集と分析に力を入れている。計画の策定から計画に沿ったケアの提供、モニタリングの一連の流れが整備されることにより、理念が活かされ更なる利用者本位のケアが提供されることと期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行なっている。急変時などは必要に応じて、随時介護計画の見直しを行っている。病状等の変化に迅速に対応するとともに、新たな計画の検討・作成を行い、早急に家族への報告と説明を行い同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	市街地までは車両の利用が便利であるため、通院介助や買物など利用者・家族の要望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から月に2回の訪問診療、訪問看護のほか、事業所利用以前からのかかりつけ医の訪問診療や通院も支援している。医療面のアドバイスを訪問診療時や電話による相談で受けるなどの連携が取られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として終末期ケアは実施していない。入所時に家族と話し合い、終末期についての意向は把握している。利用者が重度化した場合について、事業所として「できること・できないこと」についての検討を行っており、スタッフへの周知も徐々に進めている。	○	利用者や家族にとって、ホームで安心して生活する為に必要な情報の一つである終末期の対応について、指針を作成中とのことであるが早期にホームとして定め、本人や家族、医療関係者を交えて共有を行うことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員に対して、ミーティングの際にプライバシーや個人情報の取扱いに注意を促している。具体的なプライバシーの侵害場面を例示して紹介するなど、職員一人ひとりが理解しやすいよう常に意識している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を表出することが難しい場合でも、利用者がその人らしい暮らしを送るために、事業所を利用する以前の暮らしを参考にして短い言葉や表情から手掛かりを得ながら支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際に一緒に準備や片付けを行い、時には調理のアドバイスを利用者から受けている。地元の新鮮な食材や利用者の育てた野菜を使った献立が盛り込まれている。時にはすき焼きや、寿司職人が訪問するなどの他、外食などの機会も設けられている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間はほとんどが午後となっているが利用者の希望に基づいて同性介助や他の時間にも対応している。近隣に温泉施設があるため、職員とともに出かけるなど入浴を楽しめるような支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの利用者の生活歴に配慮し、事業所内で希望と力量に合わせた役割や、入所前の関係者が気軽に来訪できる雰囲気作りなどを行っている。動物の世話を通じて生き生きとした表情が見られるなど、事業所の環境と特色を生かした支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散策の誘いや、軽食を事業所敷地内で食べるなど、戸外へ出かける機会が多く持てるよう声掛けが行われている。外出や散策の希望がある場合は出来る限り対応し、気分転換ができるよう支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の気持ちの理解を大切にし、利用者の状況や行動を見守り、外出を希望する場合は職員と一緒に行動するなど安全に配慮している。玄関には2箇所のセンサーを配置し、日中は鍵を掛けないケアを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練とAED等、救急法の研修を行っている。非常用の水・食糧や毛布等の備蓄も行われている。運営推進会議などの際に町職員や自治会に対しても非常時の協力の要請を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な利用者には摂取量の記録を行い、食事量や水分摂取量が不足している場合は一人ひとりに合った支援ができるよう配慮を行っている。町の栄養士に献立のアドバイスを受けるとともに配慮の必要な利用者には医師とも連携しながら支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりと清潔感があり明るく落ち着いた環境となっている。利用者の個別の状況に応じて共用空間にも工夫がなされており、手作りの温かさや、懐かしい調度品、高齢者の暮らしやすさに配慮した機能的な空間が提供されている。一人ひとりが思い思いに過ごせ、くつろげるスペースが工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の家具や、使い慣れた家具、家族との絆を感じさせる品物が居室で活用されている。利用者が安眠する為に寝具の配置に気を配るなど、利用者本位の支援が職員全員の情報の共有と連携によって行われている。		

※  は、重点項目。